

# 嶺北地域の人口減と 医療需要の現状と将来推計

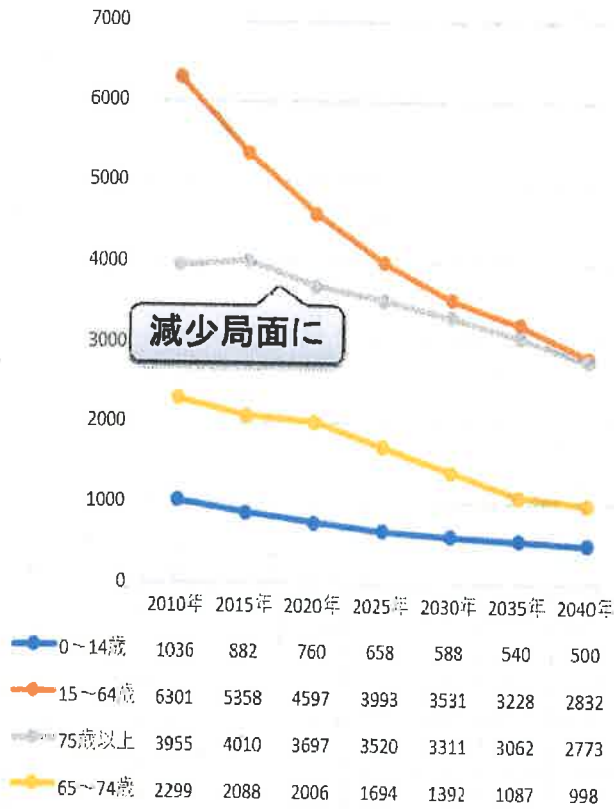
平成30年3月16日  
第2回日本一の健康長寿県構想嶺北地域推進協議会

## 人口の将来推計

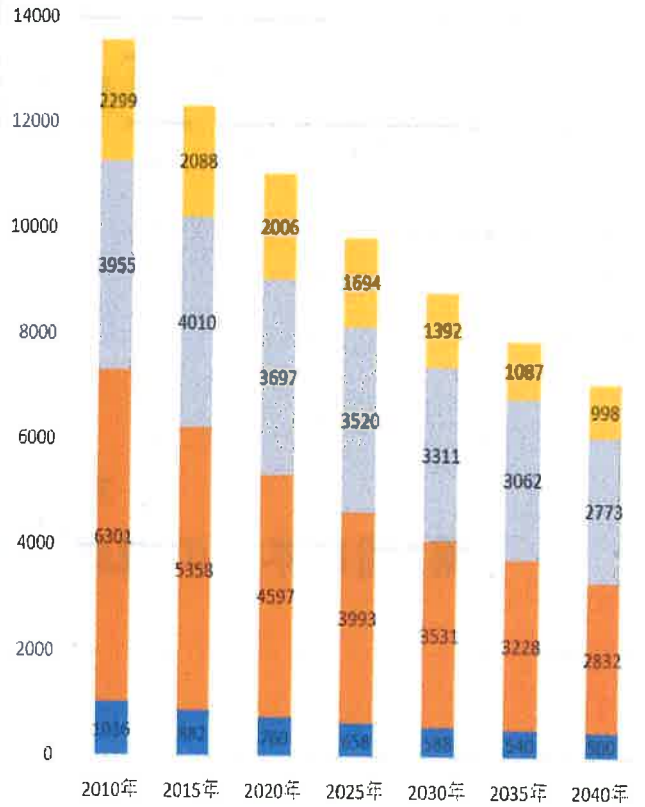
- 人口減と高齢化が進む中
- 2015年をピークに、後期高齢者も人口減の局面に入った
- 85歳以上のみ増加していたが、伸びが鈍化。あと数年でピークに
- 特に、大豊町の高齢者人口減が早い。今後20年間に、前期60%減、後期44%減

# 後期高齢者数も人口減に

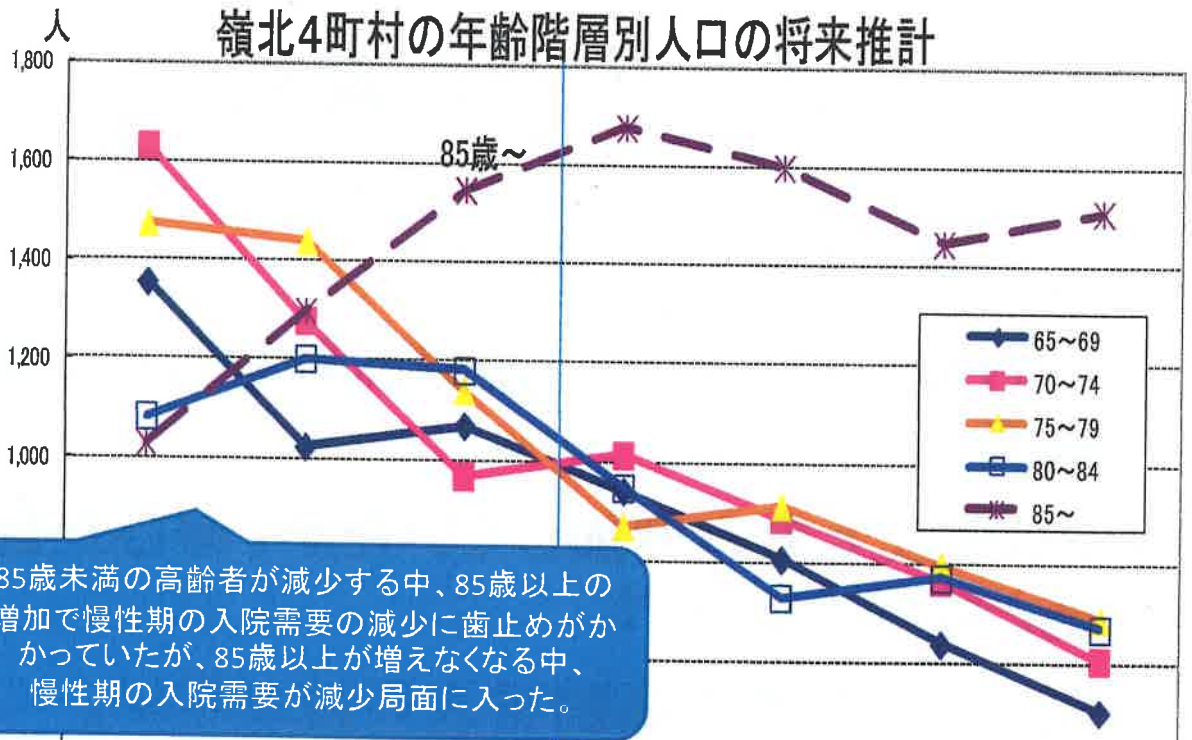
嶺北4町村の人口推計



嶺北4町村の人口推計

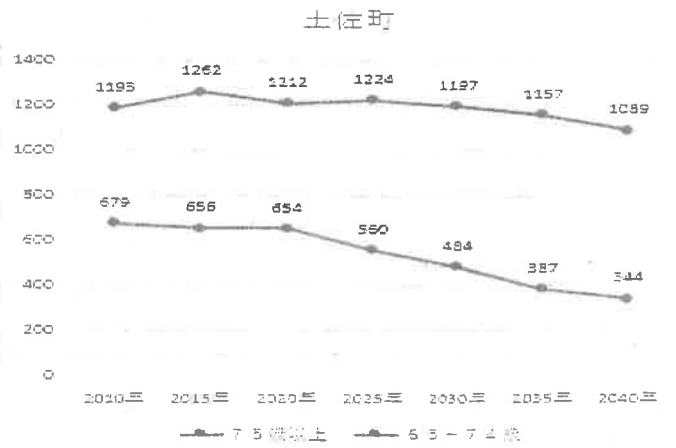
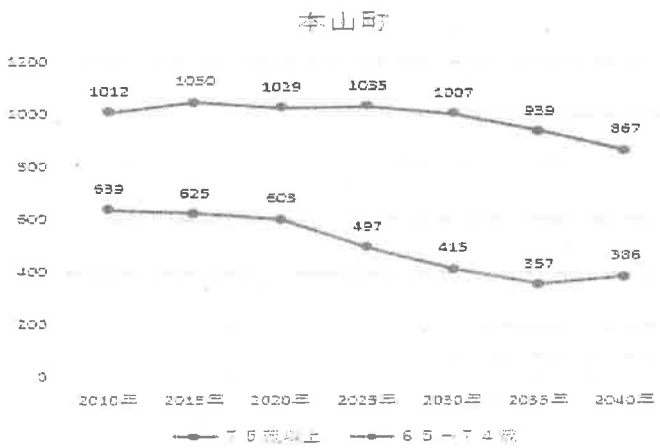
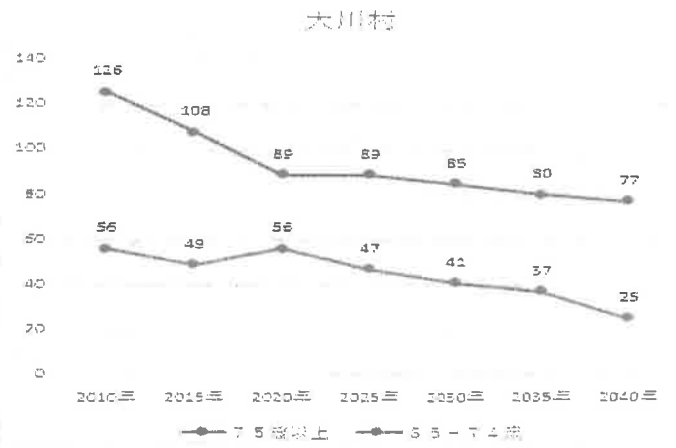
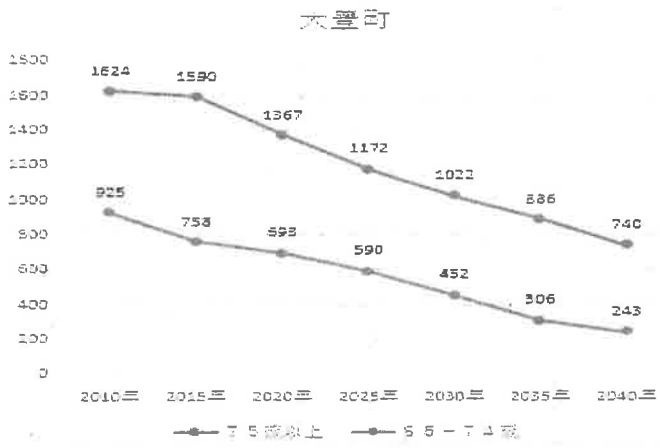


嶺北4町村の年齢階層別人口の将来推計



	平成17年	22年	27年	32年	37年	42年	47年
65～69	1,356	1,024	1,070	942	807	638	502
70～74	1,632	1,279	968	1,014	889	766	606
75～79	1,474	1,441	1,142	870	914	797	689
80～84	1,083	1,203	1,182	948	729	771	670
85～	1,029	1,298	1,548	1,678	1,601	1,448	1,512

# 前期高齢者に続き、後期高齢者も減少局面に



## 高齢者人口の将来推計 (対2015年比)

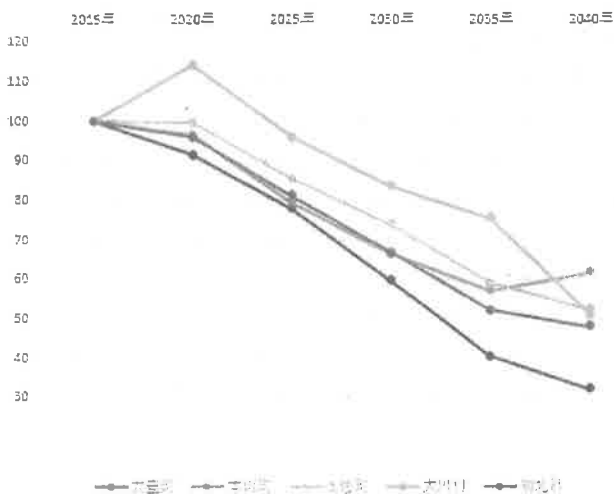
前期高齢者 (対2015年比)

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
大豊町	100	91	78	60	40	32
本山町	100	96	80	66	57	62
土佐町	100	100	85	74	59	52
大川村	100	114	96	84	76	51
前北計	100	96	81	67	52	48

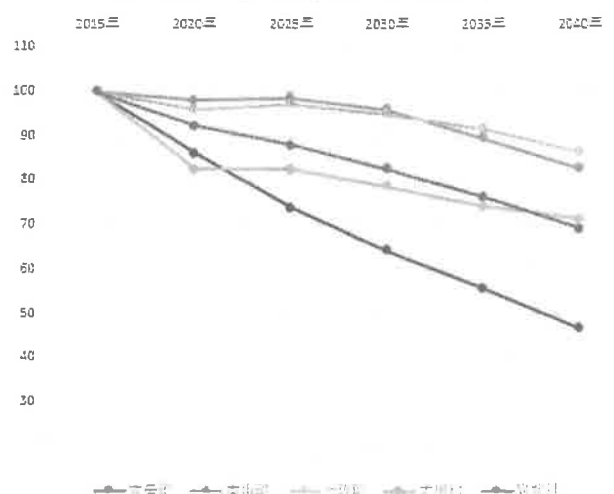
後期高齢者 (対2015年比)

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
大豊町	100	86	74	64	56	47
本山町	100	98	99	96	89	83
土佐町	100	96	97	95	92	86
大川村	100	82	82	79	74	71
前北計	100	92	88	83	76	69

前期高齢者数の将来推計 (対2015年比)



後期高齢者数の将来推計 (対2015年比)

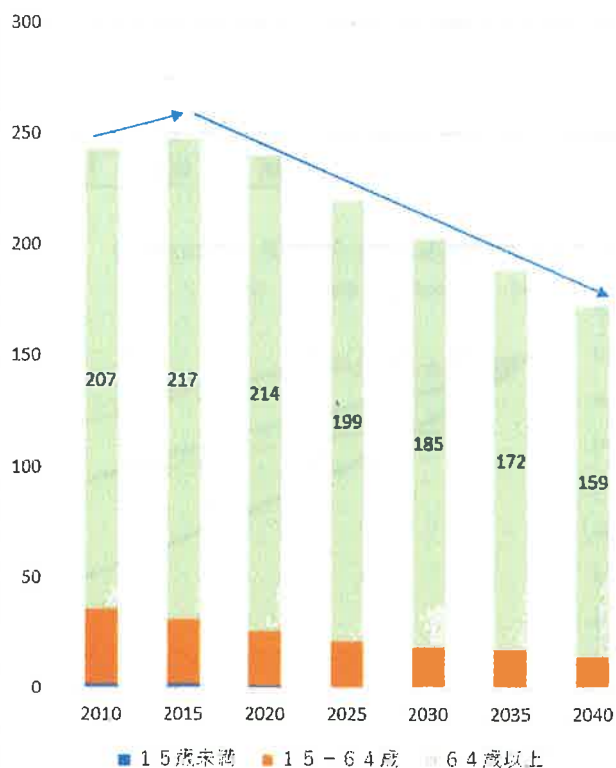


# 医療需要の現状と将来推計

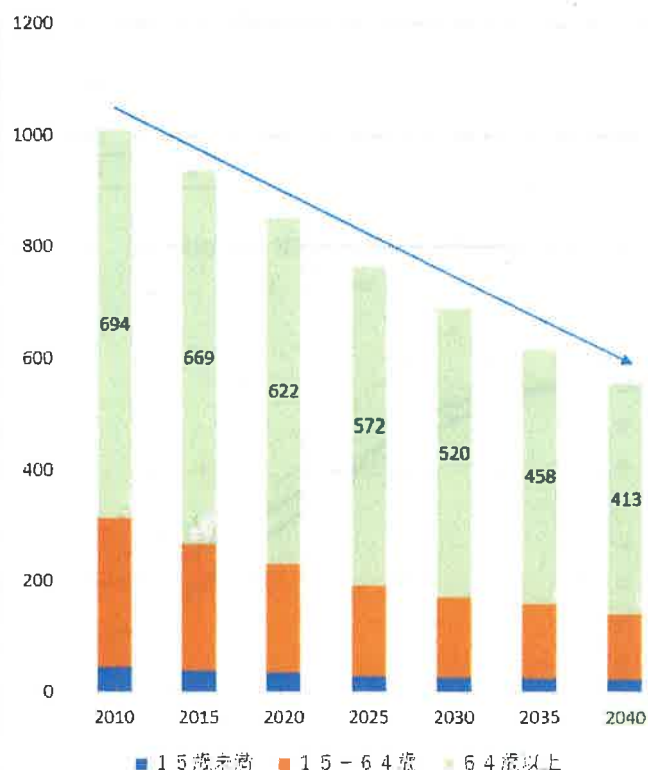
- 既に、人口減に伴い、外来と急性期・回復期の入院需要は減少中。
- 後期高齢者が人口減に転じたことと連動して、2015年(平成27年度)から慢性期の入院需要も減少局面に突入
- それに伴い3病院の療養病床の病床利用率も減少
- 近年、急性期・回復期の入院医療を担う嶺北中央病院の入院需要の減少が大きい
- 既存病床数と2025年の必要病床数(中央圏域の中で単純に人口按分)の比較では、急性期・回復期がやや少なく、慢性期がかなり多い。

## 2015年をピークに入院患者も減少局面に (嶺北地域の1日当たり入院・外来患者数の将来推計)

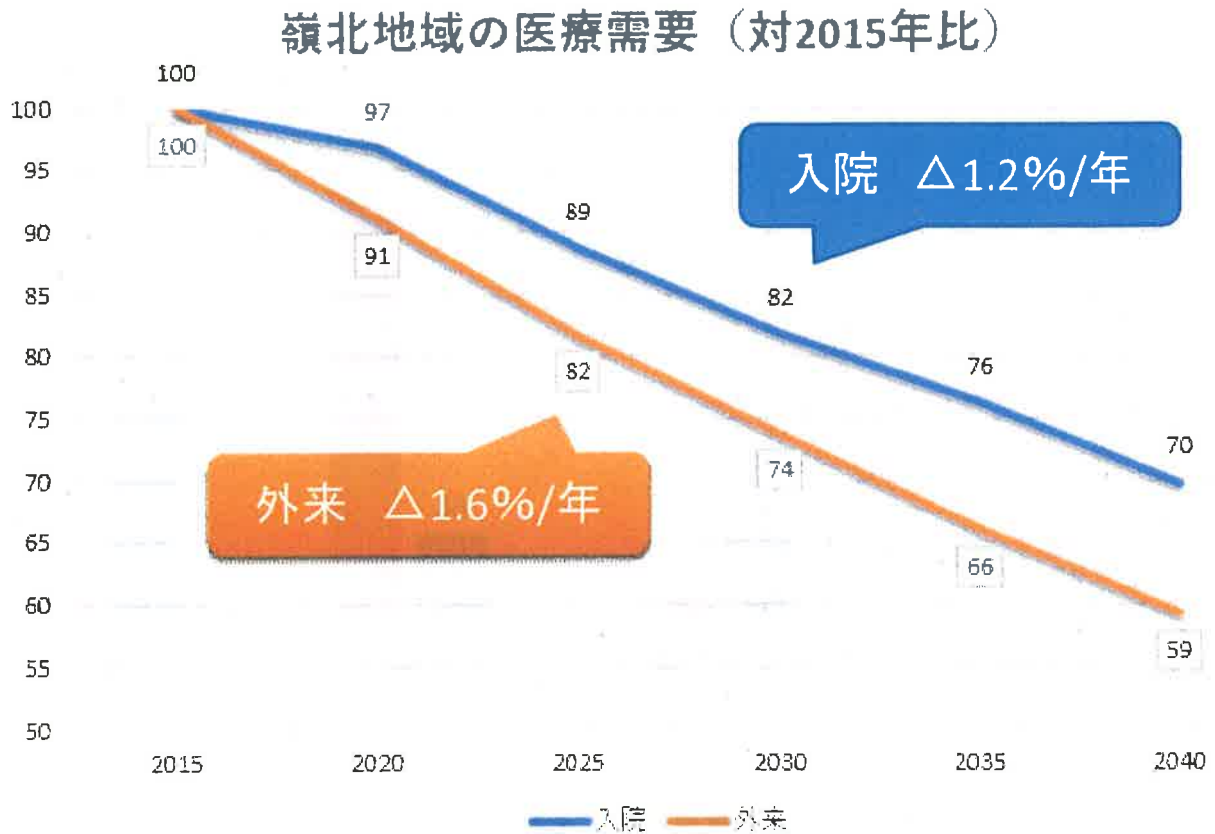
嶺北地域入院患者数の将来推計



嶺北地域外来患者数の将来推計



# 2015年を100とした時の医療需要の減少率



## 将来の需要減に伴う病床削減？

	病院	診療所	一般病床	結核病床	医療療養	介護療養	総病床数
本山町	1	1	59	*20	52		131
大豊町	1	2			92		92
土佐町	1	1			95	55	57
大川村		1					
合計	3	6	59	*20	239	55	280

■ 嶺北中央病院の病床削減(H29.4.1)

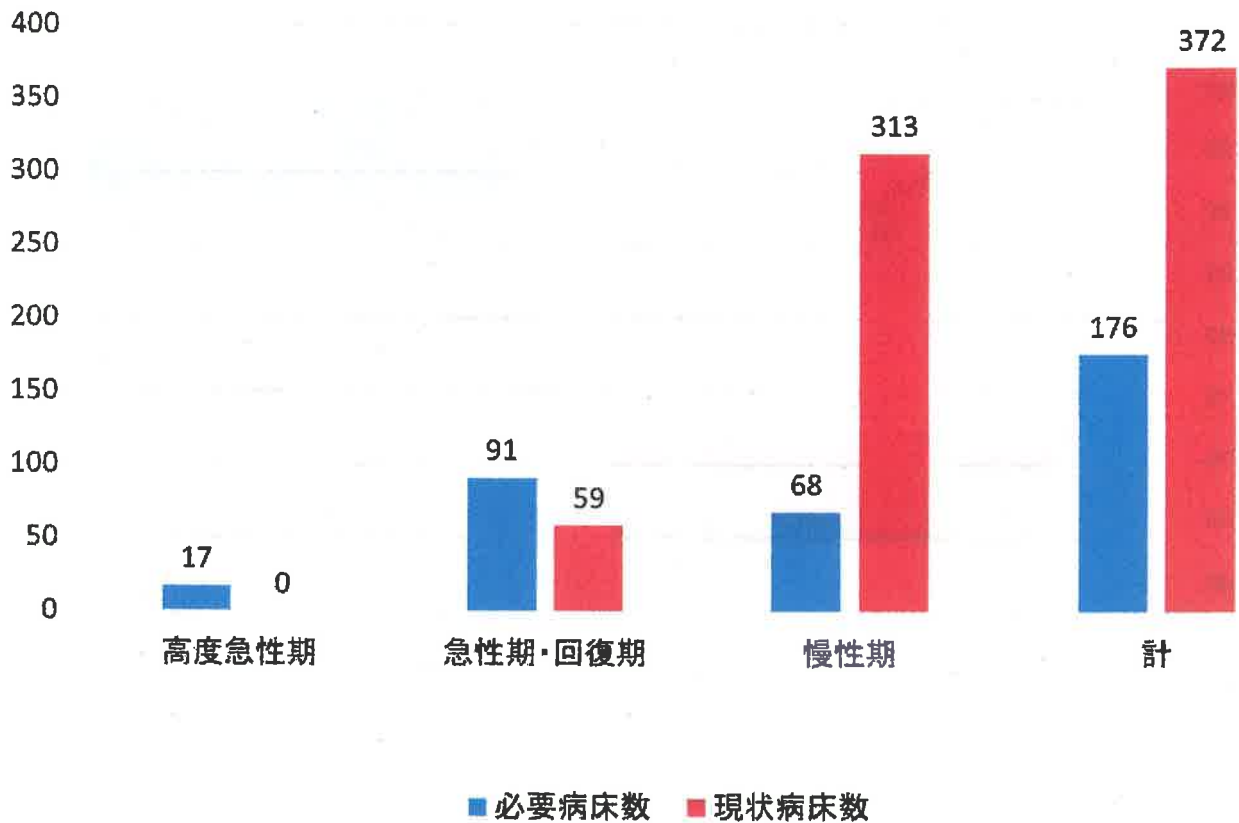
- 一般病床  $\Delta 4$ 床
- 結核病床  $\Delta 20$ 床
- 療養病床  $\Delta 8$ 床

	病院	診療所	一般病床	結核病床	医療療養	介護療養	総病床数
本山町	1	1	55		44		131
大豊町	1	2			92		92
土佐町	1	1			95	55	57
大川村		1					
合計	3	6	55		231	55	280

今後の病床転換、病床削減は？

# 2025年必要病床数と現状の病床数

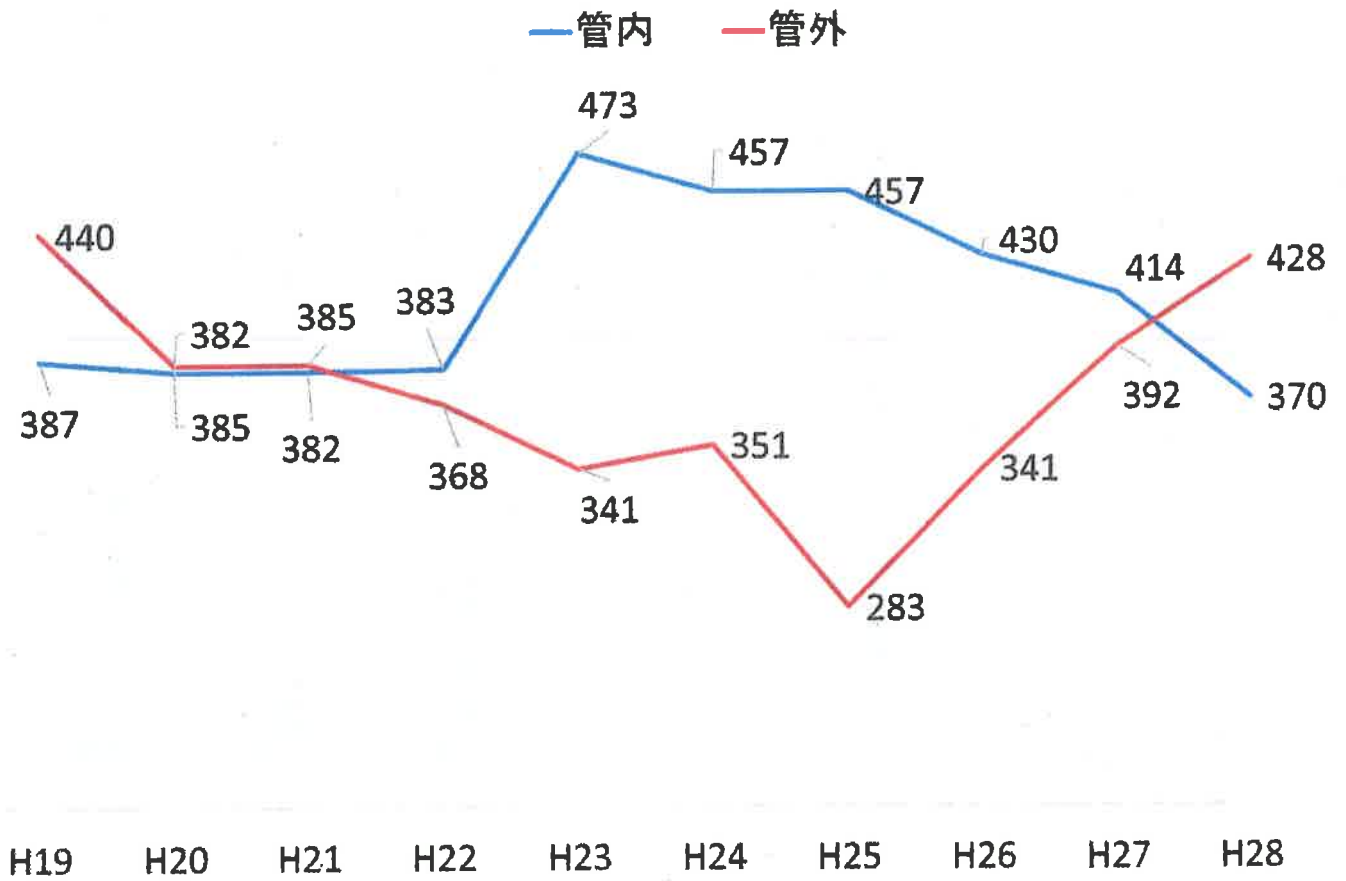
(必要病床数は、中央圏域分を人口按分)



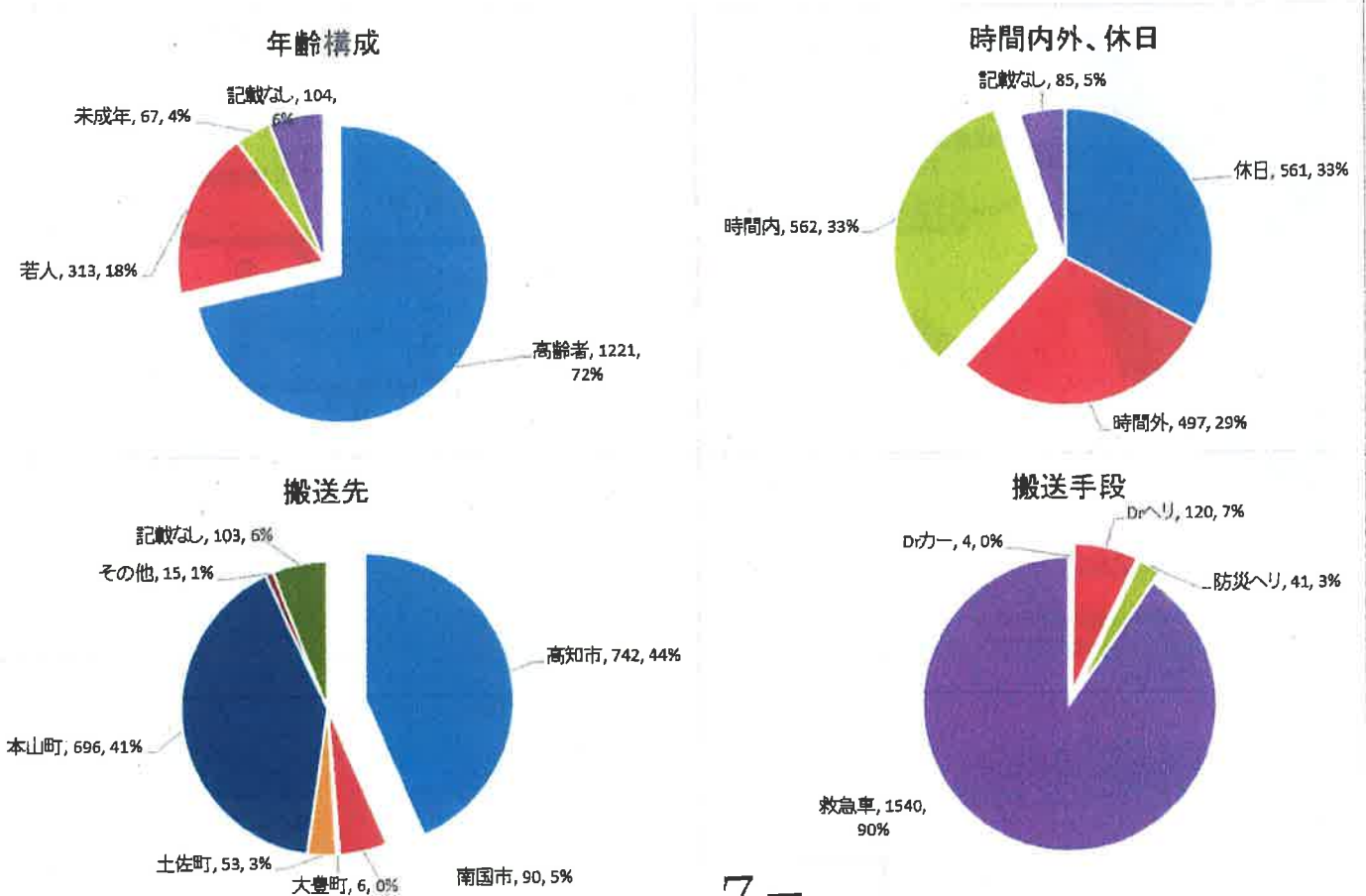
## 嶺北消防による救急搬送

- 過去10年間の搬送
  - 年間800人前後で推移。平成24年以降、管内が減少し、管外が増える傾向。H28年には、管外が管内を上回った。
- H27-28年の搬送
  - 2年間に1705人。高齢者が約7割。
  - 時間内、時間外、休日は、ほぼ1/3ずつ。
  - 嶺北中央病院への搬送は、時間内より時間外、休日の方が多
  - 管外の主な搬送先は、高知市が44%、南国市が5%。
  - 管内は主に、嶺北中央病院が41%、土佐町3%
  - ドクターヘリ120人(7%)、防災ヘリ41人(3%)、ドクターカー4人

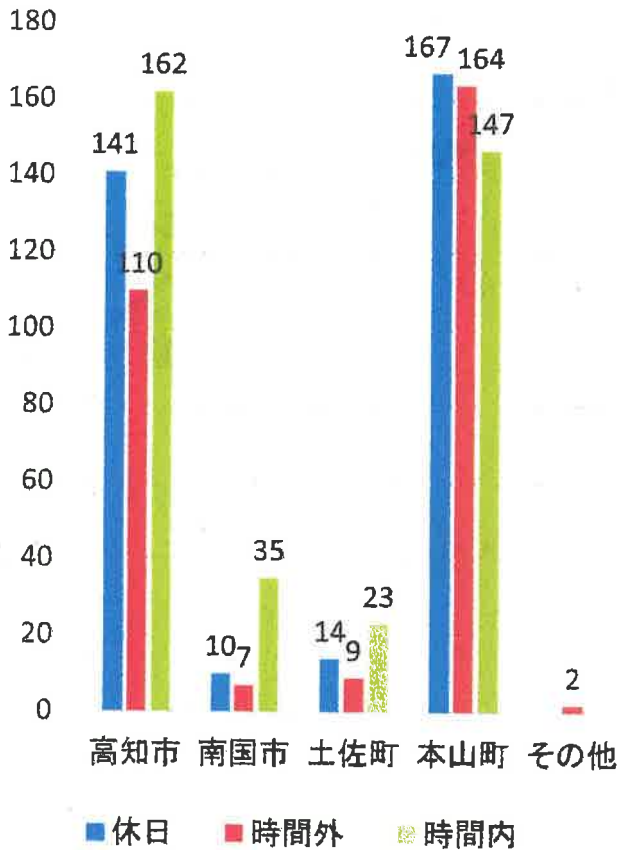
# 嶺北消防の管内・管外搬送人数の推移



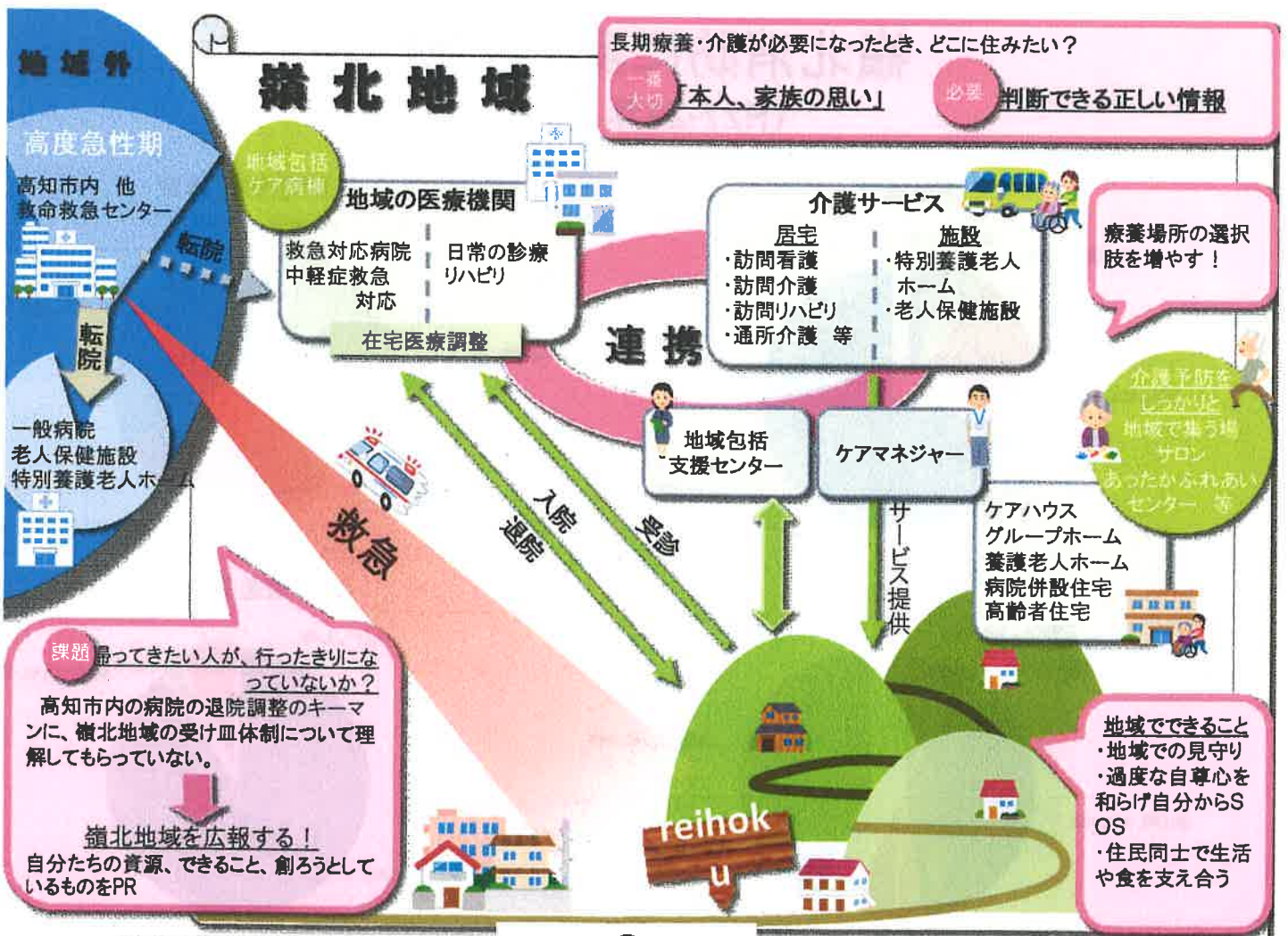
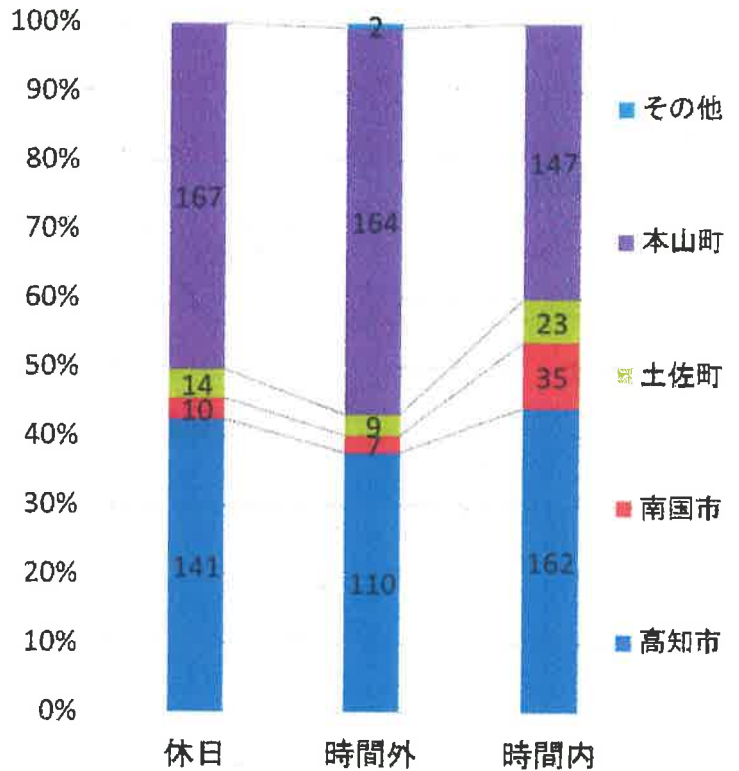
## 嶺北消防による救急搬送 (H27-28年: N=1705)



時間内・外、休日の搬送先  
(医療機関所在市町村)  
(人数)



時間内・外、休日の搬送先  
(医療機関所在市町村)  
(構成比)



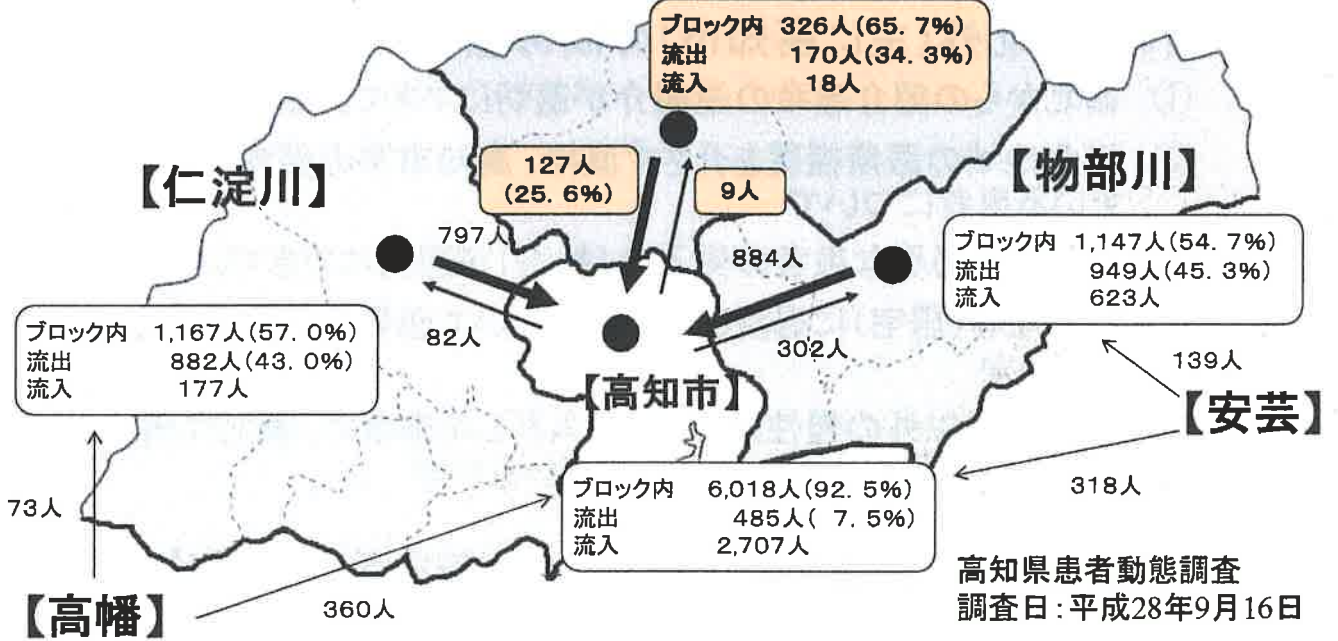


# (入院)

患者住所地別の受診医療機関所在地(入院)

		患者住所地							県外・不明	合計	
		幡多	高幡	中央				安芸			
				物部川	嶺北	高知市	仁淀川				
医療機関所在地	幡多	1,449	15	1	0	5	1	0	49	1,520	
	高幡	33	811	0	0	11	27	0	3	885	
	中央	物部川	41	44	1,147	39	302	47	139	11	1,770
		嶺北	0	0	4	326	9	2	0	3	344
		高知市	131	360	884	127	6,018	797	318	90	8,725
		仁淀川	2	73	11	1	82	1,167	2	6	1,344
	計	174	477	2,046	493	6,411	2,013	459	110	12,183	
安芸	0	5	49	3	76	8	745	7	893		
合計	1,656	1,308	2,096	496	6,503	2,049	1,204	169	15,481		

## 【嶺北】



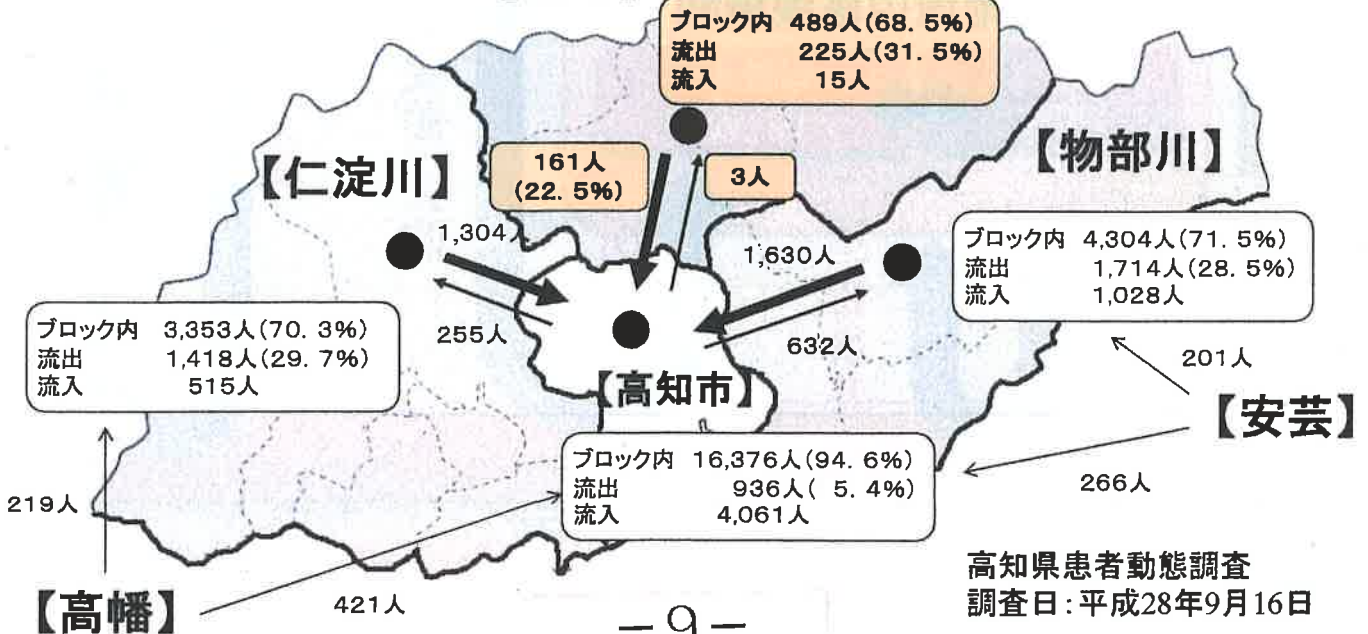
## 【サブ区域受療動向】

# (外来)

患者住所地別の受診医療機関所在地(外来)

		患者住所地							県外・不明	合計	
		幡多	高幡	中央				安芸			
				物部川	嶺北	高知市	仁淀川				
医療機関所在地	幡多	3,658	81	3	0	12	3	0	68	3,825	
	高幡	39	2,351	1	0	19	52	0	7	2,469	
	中央	物部川	18	40	4,304	61	632	57	201	19	5,332
		嶺北	0	0	5	489	3	1	1	5	504
		高知市	142	421	1,630	161	16,376	1,304	266	137	20,437
		仁淀川	12	219	7	3	255	3,353	0	19	3,868
	計	172	680	5,946	714	17,266	4,715	468	180	30,141	
安芸	0	0	68	0	15	1	2,777	11	2,872		
合計	3,869	3,112	6,018	714	17,312	4,771	3,245	266	39,307		

## 【嶺北】



# 広域的な患者動向の実態把握と対策の検討

- 現状：平成28年高知県患者調査
  - 外来：31.5%が嶺北外に流出（22.5%が高知市）
  - 入院：34.3%が嶺北外に流出（25.6%が高知市）
- 嶺北と嶺北外（主に高知市）の間の患者の流れと課題を把握
  - ① 嶺北からの紹介患者の逆紹介が適切にできているか
  - ② 嶺北地域の医療機関を介さず直接、高知市等の医療機関に入院している患者について
    - 入院が必要な患者の受入れ（転院）が適切にできているか
    - 自宅等（居宅）に退院した患者について必要な医療連携ができていないか
  - ③ 嶺北地域以外の慢性期の入院・入所した患者で、嶺北に帰ることを希望しながら帰れていない患者がいないか
- 上記をもとに、課題を検討整理し、対策を具体的に検討

今後、嶺北地域全体で現状把握と対策が必要な患者の流れ

